

卒業式式辞

高知の地に春の訪れを感じる中、令和2年度の卒業式ならびに専攻科修了式を迎えることができ、嬉しく思います。ソーシャルデザイン工学科138名、機械工学科1名、電気情報工学科6名、物質工学科1名、合計146名のみなさん、卒業おめでとうございます。そして専攻科 機械・電気工学専攻3名、物質工学専攻5名、建設工学専攻10名のみなさん、修了おめでとうございます。

本校に入学してから今日の日まで、温かく見守ってこられました保護者のみなさま、お喜びもひとしおのことと存じます。誠におめでとうございます。

また、この卒業と修了は、日頃から本校の教育・研究・地域貢献活動を通じて、みなさんを見守っていただいた地域の方々のご理解とご支援があったからこそこの卒業・修了だということを心に留めてください。

高専在学中で本科5年生と専攻科2年生は、進路の決定や卒業研究、特別研究など、学生のみなさんが主体となって教職員と一緒に作り上げる一年ですが、今年度はいつにも増して、みなさんと一緒につくった一年だったと思います。我々もみなさんも手探りで進めた一年でした。やりながら次を考え、新しい試みも進めてきました。新たな取り組みもしましたが、たくさんの毎年の学校行事を中止しました。みなさんも我々もやり残した感があり、残念に思います。

授業では、みなさんにいろいろな学びの経験をしていただきました。4月の休校による自宅待機での学習、5月からの遠隔授業、6月から学年別分散登校を開始し、8月末から通常授業ができるようになりました。いろいろな授業の形態を経験しましたが、学校で身につけてほしい一番のことは、『生涯にわたって学びを続ける』という意識を持つことですので、これからも、どういう学びの形態になろうとも、自ら学ぶ姿勢を持ち続けてください。

さて、卒業生・修了生のみなさんが踏み出して行かれる社会は、技術や情報が急速に高度化・多様化し、ダイナミックに変化する Society5.0 の社会です。この変化に即応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、自ら選択した特定領域の専門知識と他分野の知識を複合・融合できるハイブリッド型の知識・技術を備えた人材として、みなさんを育成してきました。

具体的には、複数の専門基礎力を身につけることを目指してきました。理論も技術も頭だけの理解でなく、使えるところまで身につけることを目指し、みなさんは、その目標を達成されました。

講義と実験・実習を有機的に組み合わせる高専ならではの教育で、理論と技術の基礎を身につけてきました。講義において頭で勉強したことを、実験・実習において手で確認する。実験・実習において手で勉強したことを、講義において頭で確認する。これを繰り返すことで専門基礎力を身につけてきました。

次に何が起こるか予測できない世の中で、この「基礎を身につける」ということが重要になってきています。この時代を切り拓き、イノベーションを起こせるのは、学んだ理論と技術を柔軟に応用できる人です。応用できるためには、基礎が身につけていなければなりません。基礎を身につけるためには、頭だけの理解ではない、実験・実習などの様々な経験を通しての理解が必要なのです。本校を卒業・修了されるみなさんが、その「基礎を身につけた人」に当たります。

みなさんは今、自分の専門分野で少し太くなった幹をもつ「若い木」となって卒業・修了していきます。今後は、自分の専門の幹をもっと太くして「高い木」になるとともに、「若い木」のときのしなやかさを忘れず、そして、たくさんの他の分野の「枝」を付けて、人とは違う「面白い木」になるよう、自分を鍛えてください。幸い、みなさんは複数の専門の理論と技術を学んできていますので、在学中にこのことを経験されてきたと思います。これからも、他の分野に積極的に興味を持つようにしてください。

今見てきたように、みなさんにはイノベーションを起こす人になる素地が十分にあります。自信をもって社会に乗り出してください。そして、常にそのとき取り組んでいる仕事を全力で行ってください。

また、社会の課題に気づき、その課題を工学的な視点で解決するため、専門の異なる学生がグループをつくり、培った知識と技術を持ち寄り、チームで課題を解決する社会実装教育を通じて、「学んだことを実践で使う力」、「考え抜く力」、「話す力と聞く力」を鍛えてきました。

社会に出て必要な力を高専在学中から鍛えておこうという狙いです。その社会で常に意識しておくのがSDGsの課題です。

SDGsはSustainable Development Goalsのことで、国連加盟国193

カ国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。2015 年の国連サミットで採択されました。

SDGs は、17 の大きなテーマとそれらを達成するための具体的な 169 のターゲットで構成されています。Sustainable というのは「維持できる」という意味で、development というのは「発展」とか「開発」とかを意味し、goals というのは「目標」です。それらの意味は、「地球を破滅させないための取り組む課題とその解決目標」と、私は思っています。

取り組むテーマは、貧困や飢餓、健康や教育、ジェンダー、安全な水、エネルギー、働きがいや経済成長、技術革新、まちづくり、気候変動や海の話、陸の話などあり、開発途上国だけの話でも先進国だけの話でもなく、全世界の取り組む課題です。なぜなら、今の我々の世界はつながった社会になっており、一つの国、一つの地域で閉じられるような問題はなくなっているからです。

また、SDGs は国や企業だけが取り組む話ではなく、私たち一人一人が取り組まねばならないものでもあります。それは、私たち一人一人の生き方が課題に直結しているからです。プラスチックの使用削減、食品ロスの問題、節電など、生活にそのままつながっているからです。

我々が今直面しているコロナウイルスへの対応と SDGs の達成とはよく似ています。SDGs では、自分の国が目標を達成することが他の国の為にもなり、他の国が良くなることで、自分の国ももっと良くなります。

コロナウイルスへの対応では、自分が感染に気をつけることが他の人の為にもなり、他の人が安全になることで自分の安全も強固になります。マスク、手洗い、手指消毒など、できることは何でもしましょう。

誰でも、一人一人が小さいことから始めることができる、というのも似ています。常に世界を頭において、できることは何でもやりましょう。

本校を卒業・修了された後も、我々が生きているこの時代は、一人一人の活動が地球規模の問題とつながっていると、常に意識して生活しましょう。

さて、めでたく164名の学生諸君が本校を巣立っていかれますが、この高知高専の地で築くことができた同級生の結びつきを大切にしてください。社会に出てもお互いに支え合い、生涯を通じての友達でいてください。また、学校へも顔を出して、いろいろな話を先生や後輩の学生にしてください。待っています。

これからみなさんが世界で活躍され、悔いのない素晴らしい人生を歩んでいかれることを祈念して、私からの式辞といたします。

令和3年3月15日

高知工業高等専門学校長
井瀬 潔